

科目名	失語症Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
【授業の目的・ねらい】 失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学び、今後の言語治療に役立てることができる。							
【実務者経験】 幸生病院、ドレミリハビリテーション、機能訓練教室等にて、言語聴覚士として失語症治療に従事。							
【授業全体の内容の概要】 失語症と周辺の言語症状について評価・診断・訓練の基本的な知識と技術を身につける。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症の基礎を身につけ、言語治療の枠組みを理解できる。失語症の言語療法に必要な実践能力を身につける。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	認知神経心理学的情報処理モデルを復習し理解できる。						
2	失語症者(症例Ⅱ)の紹介を通して情報収集(言語面・医学面・生活面・社会面)ができる。						
3	失語症の言語治療の理論と技法(具体的な提案)、教材を知ることができる。						
4	(症例Ⅱ)を用いて標準失語症検査の実習を行い、技能を身につける。						
5	(症例Ⅱ)を用いて標準失語症検査の結果を確認し、その技能を身につける。						
6	(症例Ⅱ)を用いて言語治療評価報告書の作成技能を身につける。						
7	訓練プログラムの立案(長期目標・短期目標・訓練内容・訓練の手順など)ができる。						
8	訓練計画に基づく教材作成ができる①						
9	訓練計画に基づく教材作成ができる②						
10	言語訓練の予行演習を通して技能を身につける。						
11	言語訓練の実習を通して技能を身につける。(訓練の様子を録画する)						
12	言語訓練の様子をVTRで確認し、問題点などを抽出できる。						
13	症例報告書の作成ができる。(1)						
14	症例報告書の作成ができる。(2)						
15	症例報告書の作成ができる。(3)						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 なるほど!失語症の評価と治療-検査結果の解釈から訓練法の立案まで 『標準言語聴覚障害学 失語症学』第3版 医学書院							
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習、検査の練習や訓練計画、訓練材料の準備が必要です。							
【単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など)】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する 試験70点、小テスト10点、課題の評価20点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							